



マリのモプティ地区にある
ペセナ小学校。

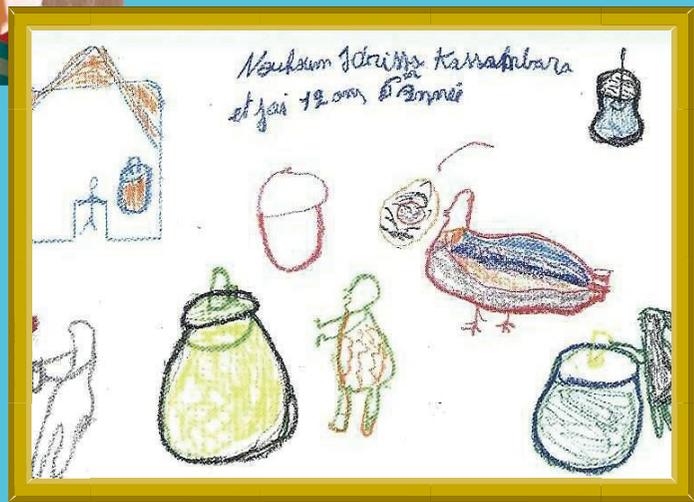
マリの子どもたちに
井戸の水を使って何をしてみたいか
絵にかいてもらったよ。



何をかいているのかな？



クラスの友だちに、自分の絵を発表したよ。



水が生活のいろんな場面で使われていることが
つたわってくるね。

発行：公益財団法人日本ユニセフ協会（ユニセフ日本委員会）

〒108-8607 東京都港区高輪 4-6-12 ユニセフハウス

TEL 03-5789-2014

<http://www.unicef.or.jp>

2008年7月発行 2015年6月改訂 ©日本ユニセフ協会

イラストレーション ささめやゆき
青山和代

なまえ

ユニセフ・ワークブック いのちの水



unite for
children

unicef

このワークブックは、

水といのちのこと、

子どものために活動するユニセフのことを、

ゲームやクイズをしながら、

知って、考えてもらうためのワークブックです。

とちゅうで調べものをしたくなったら、

日本ユニセフ協会のホームページ「子どもと先生の広場」を
見よう。

子どもと先生の広場

でけんさく 

ユニセフ（国際連合児童基金）とは…

ユニセフは、子どもたちのいのちと健やかな成長を守るために活動している
国際連合のなかのひとつの機関です。

ユニセフの活動はみなさんから寄せられた募金で支えられています。



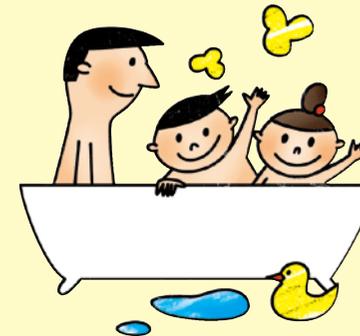
もくじ

わたしたちの生活と水	1ページ
いのちをうばう水	2・3ページ
いのちを守る水	4・5ページ
生活をゆたかにする水	6・7ページ
守れるはずのいのち	8・9ページ
ユニセフのしごと	10・11ページ
わたしたちにできること	12ページ

わたしたちの生活と水

蛇口やレバーをひねれば、

のめる水がどんどん出てくる。



トイレや洗たく、お風呂など、

わたしたちは毎日、たくさんの水を使う。

水のおかげで、

清潔な生活を送っている。

水が使えることは、

日本では特別なことではないよね。

いのちをうばう水

安全な水を使うことのできない人が
世界に何億人いるか、調べてみよう。

どろや砂がまじった、にごった水。

この水を飲み、この水で顔や体、洋服を洗い、生活している。

子どもや女性は、家族のために、

一日に何度も水くみにでかけなければならない。



少しでもすすんでいる水をくもうとする女の子たち（ソマリア）



ふだん飲んでいる水を
見せる男の子（ラオス）

汚れた水を飲むと、

おなかをこわして、げりになってしまう。

げりは、水分と栄養を体からうばい、

いのちを失うこともある。

いまでも、げりは、子どもたちの

いのちをうばう大きな原因の

ひとつなんだ。



ひどいげりになった子どもたち
体に水分を吸収するために、塩と砂糖をきれいな水に
まぜたものを飲んでいる（バングラデシュ）

© UNICEF/HQ06-0149/Michael Kamber
© UNICEF/Lao PDF/04123/Jim Holmes
© UNICEF/HQ97-0299/Shehzad Noorani

いろいろなこたえがあるよ。
どうしてその線を結んだのか
みんなで話し合ってみよう

やってみよう!

線でつなごう!

左に、村にある水のようすが、
右に、村の人たちが困っていることが
書いてあるよ。
関係があるものを、線を引いてせんぶ結ぼう。



てはいる水は汚れた水だけ



1回で手に入れられる
水の量は10~20L



大ぜいの人々がひとつの
井戸を使っている

水くみで
友達と遊ぶ
時間がない

汚れた水を飲んで
おなかや体の調子が
悪くなる

使える水が少なくて
顔や手、体を洗えない

野菜や動物を
育てる水がない

水くみで
学校に行く時間がない

洗たくに使える
水がない

いのちを守る水

きれいな水でいのちを守ることができる。
ユニセフは、子どもたちが清潔で安全な水を飲み、元気にさせるよう、井戸をつくっているよ。



むらの村で飲める水はにこった水です

とお遠くまで何度も水をくみにいきます

1つもどる汚れた水を飲んで、げりになりました

むらの村の人は井戸をつくりたいと願いました

ボーナスで1つすすむ井戸が作られることになりました!

こうし工事がはじまり、井戸の穴がほられます

みず水が出ました! てお押しポンプを組み立てます

井戸を清潔に使うための勉強をします

一回やすむ

ボーナスで2つすすむ井戸の完成です!

びょうどう平等に井戸を使い、修理できるよう委員会をつくりました

むらの村の子どもたちは元気になりました

ゴール GOAL
井戸のまわりには笑顔がいっぱい!

ボーナスで1つすすむ野菜をたくさんつくれるようになりました

一回やすむ

からだ体や洋服をあら洗えるようになりました

てあら手を洗うことを勉強しました

みず水くみの時間がへりました

コマは消しゴムなど何でもいよいよ!

ユニセフすごろく

- やったあ、きれいな水だ!
- さいころをひとつと、すごろくをやる人の数だけ、コマを用意してね。
 - スタートの位置から順番にさいころをふって、さいころの目の数だけ、マスを進もう。マスに書いてあることを、声に出して読んでみよう。
 - マスを進み、一番早くゴールについた人が勝ち! さあ、はじめよう。

生活をゆたかにする水

村に井戸ができて、
きれいな水が使えるようになってから、
いろんなことが変わったよ。



やってみよう!

井戸がやってきた!
井戸ができてから、村の生活はすごく変わったよ。
井戸ができる前とできた後の絵をくらべてみて、
どんなことが変わったのか、話し合ってみよう。



守れるはずのいのち

世界では、5歳のたんじょう日をむかえることのできない子どもたちがたくさんいる。

この地図は、赤ちゃんが1,000人生まれたとき、

そのうち何人が5歳のたんじょう日を

前にいのちを失うか、

その割合を示しているよ。

5歳になる前にいのちを失う子どもの割合
(出生1,000人あたり)



地図に○をつけよう

下にあげた13ヶ国では、きれいな水を、およそ2人にひとりしか手に入れられない。地図の上で位置をさがして○をつけてみよう。

- アンゴラ・イエメン・エチオピア・コンゴ民主共和国
- スーダン・タンザニア・チャド・ニジェール
- パプアニューギニア・マダガスカル・南スーダン
- モザンビーク・モーリタニア

考えてみよう

上で○をつけた国では、子どものいのちが失われる割合は高いかな？ 低いかな？ 共通点はあるかな。

出典「世界子供白書 2015」
 地図は参考のためにのせています。
 国境の法的地位について立場を示すものではありません。
 このページでは子どもの生存が厳しい国について学ぶことを目的としており、編集の都合上、一部の国又は国名の記載を省略しています。

ユニセフのしごと

ユニセフのしごとは井戸をつくることだけではない。

みなさんからよせられた募金で、
世界の子もたちのいのちと健やかな成長のために活動をしているよ。



やってみよう!

に入る数字を調べてみよう

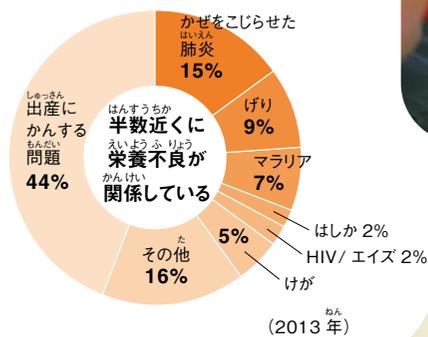
子どもたちのいのちと健康を守る

5歳のたんじょう日をむかえられずにいのちを失う子どもの数は
1年間に約 万人。その原因の多くはかぜやげりなどの
治せる病気や予防接種などで防げる病気だ。



- ◎ 予防接種をする
- ◎ 発育観察をする
- ◎ 井戸やトイレをつくる
- ◎ 栄養のちしきを広める

～子どもがいのちを失う理由～



©UNICEF/HQ06-1800/Josh Estey



やってみよう!

〇×クイズにチャレンジしよう!

- A. 世界では、10秒にひとりの子どもが5歳のたんじょう日をむかえる前にいのちを失っている
- B. 日本もむかしはユニセフの支援をうけていた
- C. ユニセフは世界150以上の国と地域で支援活動をおこなっている
- D. ポリオという病気の予防接種をするためのワクチンの値段は1回500円だ

(こたえは12ページ下を見てね)

子どもたちが学校に通えるようにする

小学校に通いたくても通えない子どもの数は約 万人。
読み書きや計算ができないと、
まずいくらしかから抜け出せない。



- ◎ 先生を育てる
- ◎ 教科書や学用品をとどける
- ◎ 親に教育の大切さをつたえる



©UNICEF/ETHA_2014_00095/Ose

子どもたちのくらしを守る

家計をささえるためにはたらかなくてはならない子どもは
約 万人(5~17歳)もいる。



- ◎ はたらいっている子どもも勉強できる場所をつくる
- ◎ 子どもに心や体によくないしごとをさせない法律をつくるよう、政府にはたらきかける



©UNICEF/NYHQ2011-1461/Friedman-Rudovsky

わたしたちにできること

世界のさまざまな環境のなかで
 せいっぱい生きている子どもたち。
 わたしたちひとりひとりにできることはなんだろう？



知ろう！考えよう！

世界の子どもたちのようすやユニセフの活動について調べてみよう。

- ◎ ホームページで調べる → www.unicef.or.jp/kodomo/
- ◎ 資料を読む・ビデオを見る → ホームページ「視聴覚ライブラリー」を見てね。
 「いのちの水—西アフリカ・マリからの報告」
 (DVD・ビデオ)もあるよ。ぜひ見てね。
- ◎ ユニセフハウスを見学する → 説明を聞きながら展示見学ができるよ。

行動する

世界の子どもたちやユニセフについて調べたことを発表しよう。
 ポスターや募金箱などをつくって、募金を呼びかけてみよう。

【たとえば】バザーやフリーマーケットでユニセフ活動

着なくなった衣類、アルミ缶、育てた野菜や花、手づくりの品物などを
 売って募金にすることもできる。……活動はみんなのアイデアしだいだ。



自分にできることから はじめよう

どんなことができるか考えて書いてみよう

たとえば 100 円の募金でどんなことができるか調べてみよう

P10-11のクイズのこたえ

- 5歳になる前にいのちを失う子どもの数 630万人 ● 小学校に通えない子どもの数 5800万人 ● はたらいている子どもの数 1億6800万人
- ※ 上記数値は2015年5月現在のものです。最新の数値は日本ユニセフ協会のホームページなどで確認してください。
- A. × 約5秒にひとりか5歳になる前にいのちを失う B. ○ 1949-1964年まで日本もユニセフの支援を受けていた C. ○ ユニセフが支援活動をおこなっている国と地域は150以上 D. × ポリオ・ワクチン1回分は20円前後



ぼくたち・わたしたちも できることをがんばっているよ！

西アフリカのマリでは、支援によって井戸ができたなら、
 学校がこんなふうになったよ。
 遠くまで水をくみに行かなくてもすむようになったし、
 病気もへって、学校を休むこともなくなった。
 もっと学校や村をよくしていくために、村の人といっしょに
 がんばっているんだ。

PTAができた

先生だけでなく、お父さんやお母さんも学校
 づくりや井戸の管理に参加して、できること
 をみんなで考えてやっているよ。



©UNICEF/NYHQ2009-2403/Pirozzi

勉強する時間がふえた

学校を休まなくなって、授業もわかるよう
 になったよ。いっしょうけんめい勉強して、
 夢をかなえるんだ。



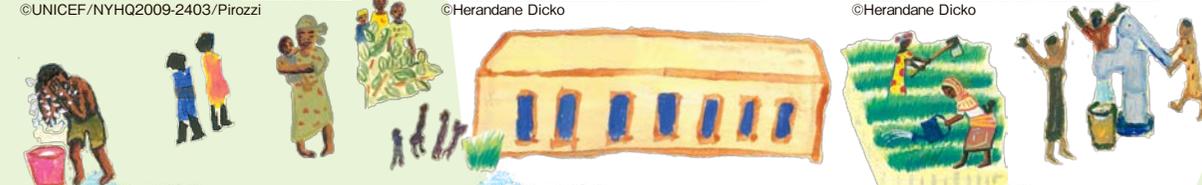
©Herandane Dicko

水大臣(係)ができた

井戸をそうじしたり、水を使う順番を決めたりする
 子どもたちの係りができたよ。みんなで
 責任をもって大事な井戸を守っているんだ。



©Herandane Dicko



衛生の授業がはじまった

学校で手洗いやトイレの使い方をならうよ
 うになったよ。自分や友だちの健康を守るた
 めに手洗いはとっても大切だね。



©Herandane Dicko

校庭で遊ぶ時間ができた

水くみや家のしごと時間がからなくな
 って、その分、友だちと遊ぶことが
 ふえたよ。



菜園ができた

井戸の水を使って菜園で野菜を育てて
 いるんだ。野菜の育て方も勉強してい
 るよ。



©UNICEF/MLIA2011-01033/Lynch